国・県事業の促進

▶国への働きかけ

- 海岸堤防の栗真町屋工区、阿漕浦・御殿場工区の早期整備完了、特に阿漕浦・御殿場工区の三重とこわか国体の競技に支障が生じない工事完了
- 中勢バイパスの鈴鹿・津工区の整備促進、交差点の立体化や４車線化による渋滞対策
- 雲出古川左岸の高潮堤防工事、雲出島貫町地内の河道掘削など雲出川河川整備計画に基づく早期整備と予算確保
- 介護現場で働く職員や保育士の処遇改善への積極的な見直し

▶県への働きかけ

- 岩田川、安濃川、三泗川、相川の河川改修事業の推進
- 一志美杉線(室ノ口バイパス)や亀山安濃線(高野尾バイパス)などの道路整備、香良洲橋の架け替え、横断歩道等交通規制標示などの修繕および通学路における交通安全対策

香良洲橋の完成イメージ図

健康で末永く暮らせるまち

国の動き

- 一億総活躍社会の実現に向けた施策の展開
- 働き方改革
- 人生100年時代構想
- 緩やかな回復が続く見通しの経済情勢
- 東京オリンピック・パラリンピックに向けた国民全体の盛り上がり

県の動き

- インターハイの開催
- 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催

国・県の動きを踏まえ、津市においても、スポーツを身近に感じ、自然と健康づくりにつながるような施策を展開し、体と心の健康を一人でも多くの市民が享受できるように、人生100年時代に向けて、住み慣れた地域で、健康で末永く暮らせるまちの実現を目指していきます。

平成30年度予算

平成30年度は、新しい津市総合計画元年です。10年間を計画期間とする第２次基本計画が始まります。10年間という期間において、社会経済情勢が目まぐるしく変わるなかにあっては、市民の意識も当然変わっていくものと思います。市民の安心や安らぎ、幸せに向けた施策が、市民の感覚とずれていてはいけません。

この思いから、新しい総合計画には、10年間をいわば縛り付けるような具体的な事業は掲げず、毎年度の予算編成のなかで示していくこととしています。

平成30年度予算は、その考えのもと編成した最初の予算となり、未来を担う子どもたちのための子育てや教育、市民が日々の暮らしの中で感じる安全・安心、快適さや便利さなどへの実効性を備えた「暮らし応援予算」とし、一般会計当初予算額は、前年度比2.3%減となる1,102億円としました。

編成のポイント

【歳入】市税は景気が緩やかな回復基調にあることなどにより、前年度比0.5%増の401億円、地方交付税は市町村合併に伴う普通交付税の算定替における特例措置の縮減による影響はあるものの、基準財政需要額に算入される公債費が増加することなどから、前年度比1.7％増の180億円、市債は、産業・スポーツセンター整備事業の終了などにより、前年度比25.1％減の104億円を見込んでいます。

【歳出】普通建設事業費は、前年度比23.4%減の128億3,000万円とし、暮らしづくりを展開する事業として、子どもの保育や教育環境の充実に向けた、認定こども園の整備、小中学校施設の大規模改造、(仮称)津市久居ホールを核とする久居駅周辺地区の整備、(仮称)津市津南防災コミュニティセンターの整備、一身田公民館の整備などに係る経費を計上しました。

笑顔があふれ幸せに暮らせる県都 津市

この将来像は、市民の皆さまが自分らしい人生を送り、自分なりの幸せを見いだし、それを手に入れることができる暮らしの実現を市政がしっかりと支えていくことによってたどり着くことができるものと考えます。市民一人一人がそれぞれの幸せを実感することができるまちの姿を追い求め、市役所一丸となって新しい時代を切り拓く市政をしっかりと展開していきます。